



China

Thailand



Brazil



DG Value News

第32期のご報告 2012年4月1日～2013年3月31日



Vision
ビジョン

イメージをカタチに

私たちローランドディー.ジー.は「イメージをカタチにする」ソリューションを世界中の人々に提供し、新たな創造の世界を切り拓いていくことを目指しています。

私たちは、Imagine.(想像)こそがすべての分野における創造の原点であると考え、お客様が描いているImagine.の世界を大切に、お客様とともに「想像を超える創造」を実現していきます。

▶世界133の国と地域で

連結販売子会社や販売代理店などのパートナー企業計25社を通じて、世界133の国と地域のお客様に製品やサービスを提供しています。

● 連結販売子会社 ● パートナー企業



▶独創的な事業展開

当社では、カラー事業と3D事業の2分野を中心に、デジタル技術でものづくりを効率化するソリューションを提案しています。

カラー事業



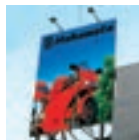
屋内外の大型看板やポスターなどを製作するサイン業界に向けた業務用大型インクジェットプリンターを展開しています。

3D事業



刃物を使って形状を削り出す3次元切削加工機やデジタル彫刻機、3Dレーザースキャナーなどで、ものづくりのデジタル化・効率化を提案しています。

デジタル印刷



3 D



医療



パーソナル





企業スローガン

創造の喜びを世界にひろめよう BIGGESTよりBESTになろう 共感を呼ぶ企業にしよう

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
第32期(2012年4月1日～2013年3月31日)が終了いたしましたので、
事業の概要および連結の決算のご報告を申し上げます。

代表取締役社長

富岡昌弘

● 第32期(2012年4月1日～2013年3月31日)連結業績

厳しい経済環境の中、売上高は前期並みとなりました

当期における世界経済は、米国においては、緩やかな景気の回復基調が続いたものの、欧州では、債務問題などの影響を受け経済活動の低迷が続きました。アジアでは、中国などの経済成長に減速感が見られ、また、日本においても大幅な円高が続くなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような中、付加価値の高い新製品により市場の活性化を図るとともに、新規市場の開拓や顧客層を広げる活動に取り組んだ結果、売上高はほぼ前期並みとなりました。また、原価率は改善したものの、販売費及び一般管理費が増加したことにより、営業利益および経常利益は前期並みとなりました。一方、当期純利益は、子会社ののれんの減損などが影響し、前期を大きく下回る結果となりました。なお、当期の配当につきましては、予定通り期末の配当を15円、年間では30円とし、配当のお支払を2013年6月20日より開始いたしました。

当社では、当期よりグループ一体となって総合力を発揮することを目指す構造改革「GlobalOne(グローバルワン)」をスタートしましたが、このたび、その具体的な施策および数値計画を3ヶ年の「中期経営計画」(P7-10参照)にまとめ、実行していくことといたしました。変化の激しい経営環境においても健全な利益を確保し、持続的な成長を実現していくため、新たな経営基盤の確立に取り組んでまいります。

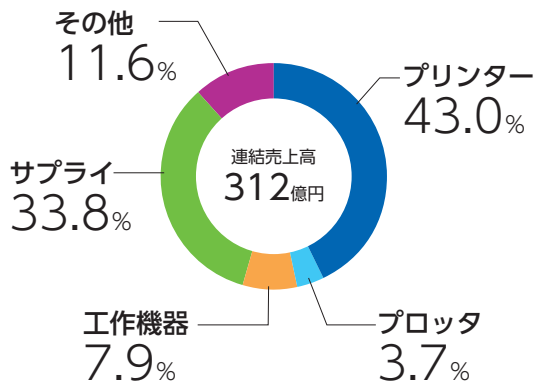
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

■ 第32期 連結業績

売上高	312億64百万円	前期比	0.4%減
営業利益	14億23百万円	前期比	1.8%減
経常利益	13億6百万円	前期比	1.4%減
当期純利益	3億56百万円	前期比	48.2%減

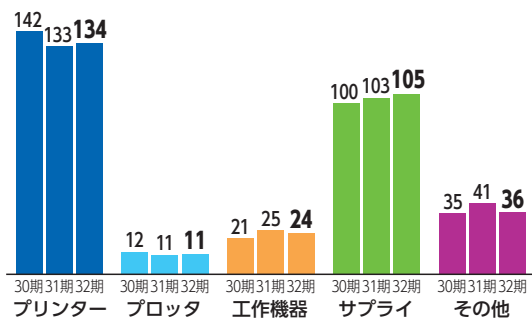
品目別

● 売上高構成比(第32期)



● 売上高推移

(単位：億円)



(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

プリンター

134億53百万円 (前期比 1.0%増)

デスクトップタイプの低溶剤プリンターBN-20や小型UV プリンター LEF-12など、前期に投入した新製品が好調だったことや、サイン市場向けのプロ用機種の新製品XR-640が順調な立ち上がりをみせたことで、プリンターの売上はわずかながら前期を上回りました。

プロッタ

11億48百万円 (前期比 2.0%増)

主力機種の販売が堅調に推移し、前期を上回りました。

工作機器

24億78百万円 (前期比 1.2%減)

企業の設備投資意欲が減退した影響などを受け、工業用途で使用される切削加工機が低調だったことに加え、デンタル加工機において、イタリアや米国を中心に着実に市場の開拓が進んだものの、前期と比べ売上が減少したことで、全体では前期を下回りました。

サプライ

105億70百万円 (前期比 2.5%増)

経済の停滞が続く南欧地域でインクの販売が減少しましたが、内需の持ち直しがあった日本やロンドンオリンピック需要のあったイギリスなどでインクの販売が好調だった結果、サプライは前期を上回りました。

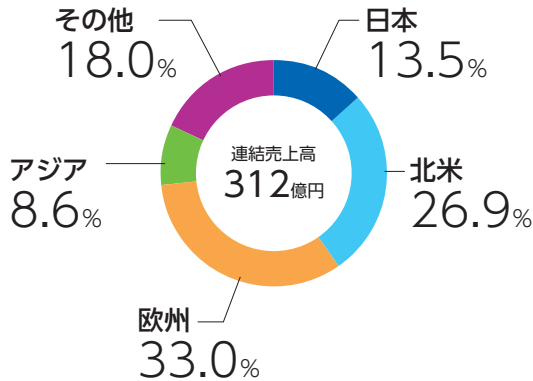
その他

36億13百万円 (前期比 12.0%減)

保守やサービスパーツなどのその他売上は、製品の販売が伸び悩んだ南欧地域やアジア地域を中心に低調だったことから、前期を下回りました。

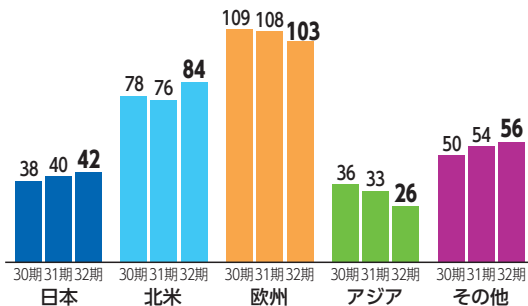
地域別

● 売上高構成比(第32期)



● 売上高推移

(単位：億円)



(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

日本

42億32百万円 (前期比 4.0%増)

スマートフォンケースなどのカスタマイズ用途に向けた小型UVプリンターLEF-12の販売促進活動が奏功したことや、プロ用機種の新製品XR-640が買い替え需要を中心に順調に販売を伸ばしたことなどから、前期を上回りました。

北米

84億8百万円 (前期比 9.7%増)

デスクトップタイプの低溶剤プリンターBN-20が、オリジナルTシャツの製作用途に導入が進んだことに加えて、LEF-12やXR-640が好調に推移いたしました。さらに販路開拓やソリューション提案活動が進んだデンタル加工機DWXシリーズも伸長したことで、前期を上回りました。

欧州

103億11百万円 (前期比 4.8%減)

ロンドンオリンピック需要を取り込んだイギリスや、販売網の拡充により伸長したロシアなど好調な地域があったことや、イタリアを中心にデンタル加工機DWXシリーズの販売が堅調に推移した一方、南欧地域では、景気悪化により伸び悩みました。さらに大幅な円高の影響もあり、欧州全体では前期を下回りました。

アジア

26億94百万円 (前期比 18.8%減)

韓国では、現地代理店経由の販売から新たに設立した当社販売子会社へ販売方法を切り替える端境期となったため、大幅な減収となりました。また中国では、景気拡大の鈍化や現地メーカーとの競争激化の影響でプリンターが減少し、アジア全体では前期を大きく下回りました。

その他

56億17百万円 (前期比 2.4%増)

南アフリカでは、在庫調整が一巡し、プリンターを中心に回復いたしました。また安定した市場に成長しているブラジルでは、4年に一度行われる統一地方選挙の需要があり、プリンターを中心に増加いたしました。これらの結果、その他地域は前期を上回りました。

連結貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

科 目	31期末	32期末
〔資産の部〕		
流動資産	20,037	20,754
固定資産	9,297	10,873
有形固定資産	6,375	7,075
無形固定資産	1,368	2,891
投資その他の資産	1,553	907
資産合計	29,335	31,628
〔負債の部〕		
流動負債	3,843	5,822
固定負債	711	944
負債合計	4,555	6,766
〔純資産の部〕		
株主資本	27,011	26,833
その他の包括利益累計額	△ 3,019	△ 1,972
少数株主持分	788	0
純資産合計	24,780	24,861
負債純資産合計	29,335	31,628

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT 連結貸借対照表

流動資産では、たな卸資産が11億円増加した一方、未収入金などのその他の流動資産が4億円減少しました。固定資産では、タイ子会社の土地、建物の取得などで有形固定資産が7億円増加し、のれんがブラジル子会社の取得や少数株主からの子会社株式の買取に伴い15億円増加しました。一方で、タイ子会社を連結対象としたため、連結では投資有価証券が4億円減少しました。流動負債では、支払手形及び買掛金が5億円減少し、一方、当社を中心に短期借入金が18億円増加し、未払金などのその他の流動負債が6億円増加しました。純資産は、為替換算調整勘定が円安で10億円増加した一方で、少数株主持分が、連結子会社の完全子会社化を進めたことで8億円減少しました。

POINT 投資活動によるキャッシュ・フロー

前期は、大久保事業所の売却収入の一方で、タイ子会社株式の取得などが主な支出となりました。当期は、ブラジル子会社の取得や少数株主からの子会社株式の買取、タイ子会社の土地、建物などを含む有形固定資産の取得などが主な支出となりました。

POINT 財務活動によるキャッシュ・フロー

前期は配当金の支払が主な収支であったのに対し、当期は配当金の支払はあったものの、短期借入による調達により収入増となりました。

 さらに詳しい情報につきましては、下記のIRサイトを
 ご覧ください。

<http://www.rolanddg.co.jp/ir/>

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科 目	31期	32期
売上高	31,379	31,264
売上原価	19,582	19,315
売上総利益	11,796	11,948
販売費及び一般管理費	10,346	10,524
営業利益	1,449	1,423
営業外収益	106	94
営業外費用	230	211
経常利益	1,324	1,306
特別利益	9	15
特別損失	14	120
税金等調整前当期純利益	1,320	1,201
法人税等	570	795
少数株主損益調整前当期純利益	749	406
少数株主利益	62	49
当期純利益	687	356

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科 目	31期	32期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 514	1,805
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 890	△ 3,544
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 635	1,177
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 102	269
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 2,141	△ 291
現金及び現金同等物の期首残高	8,785	6,727
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	84	459
現金及び現金同等物の期末残高	6,727	6,896

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

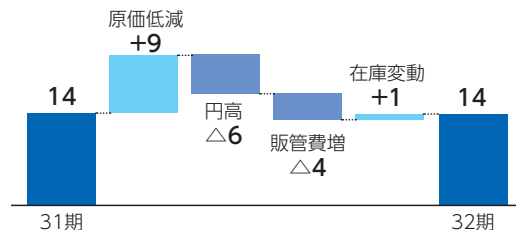
POINT 連結損益計算書

売上高 当期の売上高に対する円高の影響は、8億円の減収要因となりました。

営業利益 営業利益の前期に対する変動要因は、主にインクのコスト低減などが原価率の改善に寄与し9億円の増加となりました。一方、円高の影響で6億円の減少、新規連結子会社の増加などで販売費及び一般管理費が増加し4億円の減少となりました。

〈営業利益の変動要因〉

(億円)



特別損失 欧州子会社ののれんの減損を1億円計上しました。

POINT 営業活動によるキャッシュ・フロー

増加要因は、前期に増加した売上債権やたな卸資産が、当期は減少や小幅な増加に留まったこと、また、その他の流動資産の減少やその他の流動負債の増加に加え、法人税等の支払額が減少したことなどによります。

中期経営計画 (2013年度—2015年度) スタート

当社では、第33期(2014年3月期)を初年度とする3ヶ年の中期経営計画を策定いたしました。今回の特集では、この中期経営計画の概要や数値目標についてご紹介します。

はじめに

2008年のリーマンショック以前における当社のビジネスは、先進国経済やサイン市場の成長に伴い、主にプリンター関連製品の売上が拡大していくことで成長を遂げてまいりました。また、製品を販売するだけでなく、お客様にとって最適なソリューションと良質なサポートを提供する「付加価値の事業戦略」により、高い利益率を確保してまいりました。

しかし、リーマンショック以降は、サイン市場の成熟化や円高により、先進国における売上は低迷し未だ回復には至っておりません。一方、市場ニーズの多様化やデジタル技術の進歩などにより、これまで以上に、ものづくり

に高い付加価値が求められるようになっております。また、新興国が次々と台頭する中、当社の事業活動も先進国を中心としたビジネスから、世界全体をカバーするグローバルビジネスへ移行を進めております。

当社では、このような変化の激しい経営環境の中においても、安定した成長を続けられる強いグローバル企業を目指すための構造改革「GlobalOne」を第32期(2013年3月期)よりスタートし、11月には新しいチャレンジへの土台となる組織再編を実施しました。そして今回、数値目標を含めた具体的な施策を「中期経営計画」としてまとめ、計画的に実行してまいります。

中期経営計画の基本方針

GlobalOne 構造改革を推進し「新たな成長への経営基盤を構築」する

3つの重点テーマ

1. 新たな成長機会の創出

2. 「安心・信頼」
ブランド基盤の強化

3. 多様性のマネジメント

重点テーマ1 新たな成長機会の創出

当社グループの強みが活きる市場を創出・育成することで、収益性の向上を図ります。主に次の3つの市場に重点を置き、最重要テーマとして取り組んでまいります。

1 新しいデジタルプリンティング市場の創出

社会ニーズの多様化や個性化が進む中で、インクジェットによるオンデマンド印刷を必要とする「デジタルプリンティング分野」に高い成長の可能性があると考えております。これまで培ってきたインクジェット技術を、「光」「化学」「通信」の要素で強化し、技術バリエーションを拡充していくことで、新たな付加価値を持った独創的なソリューションを開発・提案します。

2 メディカル市場の創出

患者一人ひとりに対応し、高度な診断、分析、治療が求められるメディカル（医療）分野は、デジタル化の有効性が際立つ分野と考えております。なかでもデンタル（歯科医療）分野は、すでに様々なデジタル機器の導入が進んでおり、当社においても、入れ歯などの義歯を作るための新素材「ジルコニア」を加工する小型切削加工機を開発し、欧米や日本の歯科技工所を中心に導入が進んでおります。今後も、このデンタル分野に向けた取り組みを強化し、市場ニーズに最適な製品の開発や、お客様へのソリューション提案、サポート体制の拡充を図り、クリニックや新興国に向けて市場を拡大してまいります。

3 3Dものづくり市場の創出

当社では、20年以上にわたり、デジタルを活用した新しいものづくりとして、パソコンと小型加工機によるデスクトップ（机上）ものづくり「Desktop Fabrication（デスクトップ・ファブリケーション）」を提案してまいりました。現在では、デジタルネットワークの世界的な広がりや様々な機器の登場により、誰でも、どこでも、自らのイメージをカタチにできる環境が整いつつあり、「パーソナルなものづくり」への関心が高まっております。当社では、これまで積み重ねてきた3Dものづくり分野における経験や技術を活かし、独自のビジネスモデルの構築に取り組んでまいります。

GlobalOne

セールス・マーケティング

グローバルマーケティング強化

成長性の高い市場、
強みが活きる分野の発掘

技術と事業戦略の
立案管理

独自性の高いデジタルソリューション開発

コア技術の拡充、強化
開発のスピードアップ

開発・製造

重点テーマ2 「安心・信頼」ブランド基盤の強化

当社では、これまでお客様の感性に訴える機能やデザイン、ユニークさを大切にしながら、高品質で、簡単、安全に誰でも扱いやすい製品づくりに努めてまいりました。また同時に、クリエイティブセンター、アカデミー、ケアの3つの活動を通じて、お客様に安心して当社製品を導入・活用いただけるサービスの提供に取り組んでまいりました。

今後も、付加価値の高い製品・サービスで「安心・信頼」のブランドを積み重ねると同時に、グローバルに、より多くの人々に認知されるようIR・PRの積極展開にも取り組んでまいります。

安心・信頼の顧客サポート



クリエイティブセンター

豊富なアプリケーションを通じた新しい用途提案



アカデミー

製品やソフトウェアに関する教育・トレーニングの実施



ケア

製品導入前後のきめ細やかなトータルサポートシステム

重点テーマ3 多様性のマネジメント

先進国中心だったビジネスエリアをグローバルに広げ、地域や業界の多様な変化を成長に取り込み、リスクに強い企業体質の構築を目指します。また、事業の多様性に対応して、グループの機能強化および効率化を図るとともに、グループの人材を活かす組織とマネジメント体制に変革します。

1 グローバル市場の3極マネジメント

世界を「欧州」「アジア・パシフィック」「米州」の3つのエリアに分け、これまで各地域の販売子会社が培ってきたノウハウを活かし、未開拓地域および新興市場の開拓を加速します。

2 グローバルものづくり

日本の開発・製造体制に、タイの生産工場および台湾の開発会社を加えて、開発・生産・調達業務を分担し、多様化する市場ニーズに適した製品の提供、コスト競争力や為替対応力を向上します。

3 人材の多様性を活かす組織

グローバルな人材交流、人材育成を推進していくことで、ユニークで革新的な価値を生み出し続ける企業風土を築いてまいります。

セールス・マーケティング

3極体制で地域全体をマネジメント



顧客に適した製品提供

開発・製造

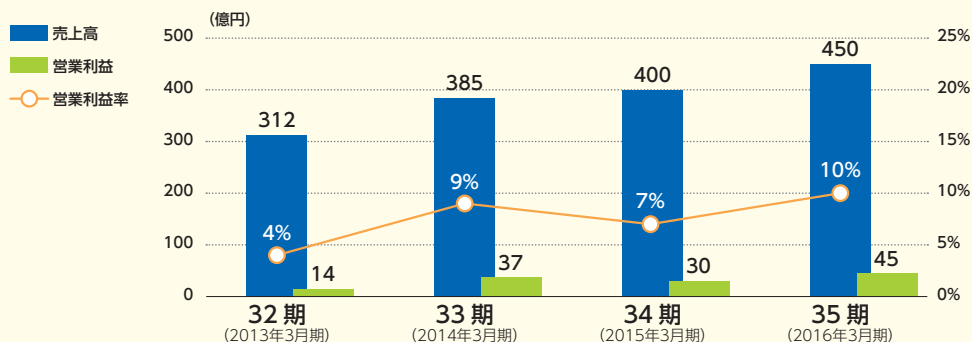
中期経営計画3ヶ年の連結業績目標について

次期を含む3ヶ年の連結業績目標および数値計画につきましては、以下の通りとなります。本計画期間内では、平均売上成長率14%、平均営業利益率8%を見込んでおります。なお、為替前提は1米ドル=90円、1ユーロ=120円に置いております。

また、本計画の2年目となる第34期には、世界各国に

おけるセールス・マーケティング活動や新規市場へのアプローチを積極的に展開する予定です。そのため販管費などの増加が見込まれることから、一時的に営業利益が前年を下回る計画となっておりますが、これらの取り組みにより、3年目の第35期は増収増益を見込んでおります。

連結業績目標および数値計画	実績	数値計画			
	32期 (2013年3月期)	33期 (2014年3月期)	34期 (2015年3月期)	35期 (2016年3月期)	
売上高	312億円	385億円	400億円	450億円	
営業利益	14億円	37億円	30億円	45億円	
営業利益率	4%	9%	7%	10%	
主な為替レート	1米ドル	80円	90円	90円	90円
	1ユーロ	103円	120円	120円	120円



10月 当社の大型プリンターXR-640が Best of 2012 AWARDを受賞

10月25日～27日までドイツのフランクフルトで開催された「viscom Frankfurt (ヴィスコム・フランクフルト) 2012」において、大型プリンターの新製品 SOLJET PRO4(ソルジェットプロフォー) XR-640がBest of 2012 AWARDを受賞しました。viscomは、欧州地域でサイン、ディスプレイ、印刷などに関わる製品・サービスの見本市として20年以上にわたり続いている展示会です。同賞は、出展製品の中で革新的な製品に贈られるもので、サインメイキング部門においてプリンターメーカーとしては唯一の受賞となりました。

XR-640は、ポスターやバナーをはじめ、ステッカー、ウィンドウ装飾、車両ラッピングなど多様な用途に使用できることや、ライトブラックインクによる優れたモノクロ調の色再現性と美しい写真表現、そしてメタリックやホワイトインクによる付加価値印刷などが高く評価されました。これからもお客様のビジネスに新しい価値を提供できる製品づくりに努めてまいります。



Roland DG Benelux N.V.のEli Keersmaekers (CEO)が出席した授賞式の様子



SOLJET PRO4 XR-640

11月 あなたのクワイイ！をカタチにするデジタルデコツール新登場

11月1日より、当社がパーソナル(個人)市場に向けて提案しているiCreate(アイクリエイト)シリーズの新製品となる「iDecora(アイデコラ)ID-01」を発売開始しました。iDecoraは、パソコンやiPadを使ってデザインした文字やイラストのカタチに、ステッカー用シートやクラフト紙などを自動で切り抜くことができる新しいデジタルデコツールです。

11月15日には、渋谷FabCafe(ファブカフェ)にて発表会を開催しました。報道関係者やクリエイターなど50名以上の方々が集まる中、製品の紹介をはじめ、各種トークセッションやiDecoraを使った作品づくりを体験できるワークショップなどを実施。参加者からは「デザインがかわいい」「招待状などに貼るデコシールが簡単に作れそう」などたくさんのご意見をいただきました。なお、当社ホームページの特設Webサイトでは、製品の操作方法やお客様の優れた作品の数々、豊富なダウンロードデータなど、iDecoraに関する様々な情報をご紹介しておりますのでぜひご覧ください。



「iDECO CREATIVE PARTY」と題して開催された発表会



大盛況だったワークショップの様子



ハローキティの限定モデルも発売



世界各地で新しい拠点が次々とオープンしています

世界各地で新しい拠点が次々とオープンし活動を開始しています。グループ全体としての最適化や効率化を図るとともに、各地域のニーズに合った活動を行っていくことで、世界中のお客様に価値あるソリューションをお届けしてまいります。

2011年11月設立 Roland Digital Group (Thailand) Ltd.

タイに設立した当社初の海外生産工場。昨年10月より量産を開始し世界各国への輸出をスタート。新興国のニーズに合った製品や先進国においても競争力の高い製品をスピーディに生産してまいります。また、海外での生産・部品調達を推進することで、原価低減や価格競争力の向上、災害時のリスクや為替リスクの回避などの効果も見込んでいます。



2013年1月開催のオープニングセレモニー

2012年1月設立 Roland DG EMEA, S.L.

欧州販売子会社の間接業務の統合・効率化を図るためのシェアードサービス会社。今年1月より一部稼働を開始。物流業務などを中心に、欧州の子会社間で重複している作業を集約し、間接業務の効率向上を図ります。

2012年10月設立 Roland DG (China) Corporation

中国の上海に新しく設立した販売子会社。今年1月より本格的な活動を開始。主にUVプリンターやデンタル加工機などの高付加価値製品を中心に、直接現地でセールス・マーケティング活動を行うことで、新規分野の開拓と当社ブランドの確立を目指します。



クリエイティブセンターの様子

2012年12月設立 Roland DG Korea Inc.

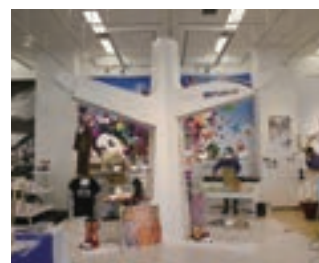
韓国に新しく設立した販売子会社。大型プリンターの積極的な販売展開ときめ細やかなサービスメンテナンス活動を行うとともに、新規市場の開拓に取り組んでまいります。

2013年2月(東京)

2013年3月(大阪)

東京／大阪クリエイティブセンター

東京および大阪のクリエイティブセンターをリニューアルオープン。当社の掲げるブランドメッセージ“Imagine.”をテーマに、世界中から集めた当社ユーザー様のサンプルによるソリューション提案を中心に、お客様のビジネスのヒントや新しいアイデアを喚起



新しくなった東京クリエイティブセンター

するようなクリエイティブな空間作りを目指しました。各種内覧会や体験会、教育トレーニング、デザイナー・学生の方々の作品展示会などを積極的に開催し、より多くのお客様が集うコミュニケーションスペースとして機能するよう努めてまいります。

2013年3月取得 Roland DG Brasil Ltd.

ブラジルで新しく持分を取得した販売子会社。同国では、2014年にサッカーW杯、2016年にはリオデジャネイロオリンピックの開催を控え、数多くの看板広告やユニフォーム・応援用Tシャツなどのアパレル用品の製作需要が見込まれるため、当社プリンターへの



クリエイティブセンターの様子

ニーズの高まりが期待できます。安定した成長を続けるブラジル市場で積極的な活動を行うことで、売上およびブランド力の向上を目指します。

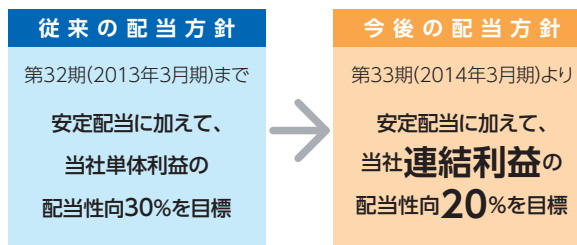
■ 配当方針の変更に関するお知らせ

このたび当社では、構造改革「GlobalOne」を推進し、経営体制を一層強化していく中で、今後の配当に関する基本方針につきましても検討を行い、第33期(2014年3月期)より以下の通り変更し、株主の皆様の日頃のご支援にお応えしてまいります。

これまで当社単体の利益に対する配当性向30%を念頭に安定した配当を継続的に実施することを目標として、今後の事業展開を総合的に勘案の上、決定してまいりましたが、当期に連結子会社の完全子会社化を達成したことを踏まえ、グローバル経営の観点から、今後は連結利益をベースといたします。

具体的には、連結利益に対する配当性向20%を念頭に安定した配当を継続的に実施することを目標としてまいります。

次期の配当につきましては、為替の円安に加え日本や北米などの経済環境の好転を受けて業績の回復を見込んでおり、新たな基本方針に基づき中間、期末とも1株当たり20円を予定、年間では当期の30円に比べ、10円増額の40円となります。



DG Value News アンケート集計結果

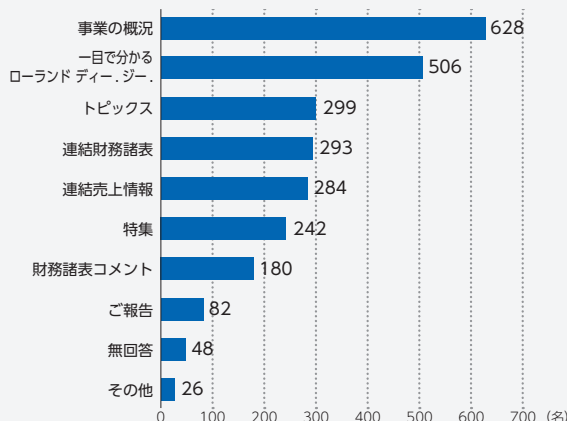
期 間：2012年12月10日から2013年3月31日
回答数：1,219名(2012年9月30日現在の株主数11,457名)

当社が提供する新しい価値を株主の皆様へわかりやすくお伝えできるよう、アンケート内容を参考にさせていただくとともに、株主の皆様からいただいた貴重なご意見・ご要望は今後の経営に活かしていきたいと考えております。下記に株主様からいただいたアンケート集計結果の一部をご紹介します。

Q 本誌をお読みになり、興味を持たれた項目をお聞かせください(複数回答可)

前号より新たに追加した「一目で分かるローランド ディー.ジー.」には、新しい株主の皆様にも当社のご理解いただけるよう、図や写真を交えて当社の概要をご説明しています。また特集ページでは、第33期を初年度とする3ヶ年の中期経営計画を取り上げ、新たな成長に向けた今後の施策について説明させていただきました。

今後も皆様からのご意見・ご感想をもとに、より幅広い方々へ当社の取り組みをご理解いただける誌面づくりに努めてまいります。





会社概要

商号	ローランド ディー.ジー.株式会社
設立	1981年5月1日
資本金	3,668,700,000 円
主な事業内容	コンピュータ周辺機器の製造販売
従業員数	966人(連結)

役員一覧 (2013年6月19日現在)

取締役社長 ^{*1}	富岡 昌弘	
専務取締役	鈴木 渉	
専務取締役	ロバート・カーチス	
常務取締役	堀田 修史	
取締役	伊藤 純	
社外取締役	広瀬 卓生	
監査役	佐藤 仁郎	^{*1} 代表取締役です。
監査役	中川 正則	^{*2} 社外監査役 木下雅裕氏および遠藤克博氏は、(株)東京証券取引所が定める独立役員です。
社外監査役 ^{*2}	木下 雅裕	
社外監査役 ^{*2}	遠藤 克博	

会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

事業所

本社	浜松市北区新都田一丁目6番4号
都田事業所	浜松市北区新都田一丁目1番3号
営業所	札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡

海外グループ会社

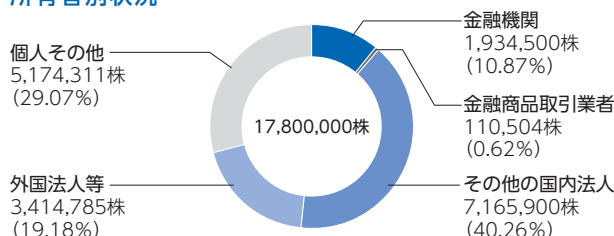
- Roland DGA Corporation (アメリカ)
- Roland DG Benelux N.V. (ベルギー)
- Roland DG (U.K.) Ltd. (イギリス)
- Roland Digital Group Iberia, S.L. (スペイン)
- Roland DG Mid Europe S.r.l. (イタリア)
- Roland DG North Europe A/S (デンマーク)
- Roland DG Australia Pty. Ltd. (オーストラリア)
- Roland DG (China) Corporation (中国)
- Roland DG Korea Inc. (韓国)
- Roland DG Brasil Ltd. (ブラジル)
- Roland DG Deutschland GmbH (ドイツ)
- Roland Digital Group (Thailand) Ltd. (タイ)
- Roland DG EMEA, S.L. (ヨーロッパ)

株式の状況

発行可能株式総数	71,200,000 株
発行済株式の総数	17,800,000 株
株主数	13,645 人

株主名	持株数	出資比率
ローランド株式会社	7,120,000株	40.00%
TAIYO FUND, L.P.	1,530,700株	8.60%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	661,300株	3.71%
ローランド ディー.ジー.社員持株会	466,000株	2.61%
ビーエヌワイエムエル ノントリーティー アカUNT	331,400株	1.86%
富岡 昌弘	309,700株	1.74%
MSCO CUSTOMER SECURITIES	287,008株	1.61%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	284,400株	1.59%
TAIYO BLUE PARTNERS, L.P.	213,500株	1.19%
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505041	213,200株	1.19%

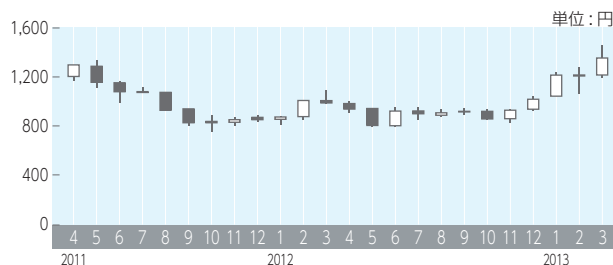
所有者別状況



^{*}自己名義株式460株は「個人その他」、証券保管振替機構名義株式8,500株は「その他の国内法人」に含まれています。

^{*}記載比率は、小数点第2位未満を四捨五入して表示しています。

株価の推移



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会開催時期	6月
単元株式数	100株
基準日	定時株主総会の議決権 および期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告します。
公告方法	当社の公告は電子公告とし、 インターネットホームページに掲載します。 http://www.rolanddg.co.jp/ir/index.html ※ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711(通話料無料) [受付時間9:00~17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)] ホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/
株主優待	毎年3月31日現在の1単元(100株)以上所有の株主様に、年1回当社が選んだ世界各国の名産品(3,000円相当)を掲載したオリジナルカタログの中から一品を選択していただくものです。(2013年6月実績)
本誌に関する お問い合わせ先	広報・IR課 TEL 053-484-1400
株式・株主優待に 関するお問い合わせ先	法務部 TEL 053-484-1236

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

IR サイトのご案内

当社では株主や投資家の皆様にご社のことをより深く理解していただくとともに、最新情報をタイムリーに提供することを目的に、ホームページを活用したIR活動にも注力しています。ぜひ、当社ホームページ「IR情報」をご覧ください。



● 最新IRイベント

直近の決算発表日から個人投資家向けのIRフェアの出展など、IRに関する最新情報をお知らせしています。

● IRメール配信

メールアドレスをご登録いただいた方には、ニュースレターや決算情報などの最新情報をメールにてお知らせしています。

● はやわかりローランド ディー・ジー

「事業内容」や「業績」などの基本情報のほか、「当社の強み」や「当社製品の活用事例」などをわかりやすく紹介しています。

今後も皆様のご意見を反映させながら、IR活動の充実を図ってまいります。

<http://www.rolanddg.co.jp/>

ローランド ディー・ジー

検索

 **Roland**[®]
<http://www.rolanddg.co.jp/>


UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

 ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC[®] C022915


VEGETABLE
OIL INK